

校内研修計画

1 研修のねらい

校内研修を通して、教育力の向上や今日的課題に対応できる教師としての資質の向上を図る。

- (1) 今日的課題に対応するための研究 ———— テーマ研修：学力充実に関する研究
- (2) 教師の授業力の向上に関する研究 ————
- (3) 今日的課題に対応するための修養 ———— 現職研修：人権教育、特別支援教育等

2 研修の方針について

児童の実態や今日的課題を踏まえ、職員の要望に沿った計画を立て、テーマ研修や現職研修を行う。

- (1) 研修時間 15:30～16:30
- (2) 研修場所 職員室、多目的室、会議室など

3 研究主題

自己を見つめ、自ら学びに向かう児童の育成

～児童が主体的にコミュニケーションを図ることができる授業づくりをとおして～

【小中合同研修テーマ】

自己を見つめ、自ら学びに向かう児童生徒の育成

～なりたい自分を目指して～

4 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

教育の今日的課題の一つとして、外国語の学習の充実が挙げられる。特に英語は、グローバル化の進展に伴って、国際共通語としての重要性が高まっている。しかし、日本の英語教育は、4技能（聞く、話す、読む、書く）のバランスが取れておらず、特に話すことと書くこと的能力が低いという課題がある。また、学年が上がるにつれて英語の学習意欲が低下し、コミュニケーション能力を育成するための言語活動が十分に行われていないという現状もある。このような問題を解決するためには、小学校6年間の系統性を明らかにし、児童の英語力を多面的に評価し、失敗を恐れずに積極的に英語を使おうとする態度を育てることが必要である。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「やさしさ・やる気・夢がいっぱい みんなとつながる田浦っ子」であり、「やさしさ」とは、互いを思いやる心、「やる気」とは主体性、「夢がいっぱい」とは将来の目標をもつことやなりたい自分の姿を描くこと、「みんなとつながる」とは、互いを認め合い、双方向で考えを交流しながらより良い人間関係を構築することである。そうした力の基礎を培うために、日頃の授業を改善するとともに、心の教育やキャリア教育をさらに充実させる必要がある。

(3) 児童の実態から

本校の児童は明るく素直で、学習課題にも真面目に取り組もうとする姿が見られる。しかしながら、授業への主体的な参加態度や自分の思いを相手に伝えるという表現活動においては個人差があり、課題である。

そこで、本年度は、外国語科、外国語活動を中心としたコミュニケーション能力の向上を図り、児童が外国語を使って自分の考えや思いを表現する力が発揮できるようにしていく。また、教師は、学習課題の設定、言語活動の充実、振り返りの工夫、ALTの効果的な活用等、授業の工夫改善に努め、児童の実態に合った授業づくりを行うことによって、児童の「外国語を使って表現したい」という意欲を高め、主体的に学び自分の考えを表現できる児童の姿を目指す。さらに、小学校6年間の外国語学習の系統性を明らかにし、低学年から外国語や外国の文化に慣れ親しむ機会を設定することで、学校全体でコミュニケーション能力の育成を目指す。

5 研究主題の捉え方

(1) 「主体的に学ぶ」とは

- ・子供自身が学びをコントロールすることであり、自ら課題を設定し、課題の解決に向けて見通しをもって活動し、自己の学びを振り返ること。

(2) 「コミュニケーションを図る」とは

- ・相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、持っている知識を総動員して相手に外国語で自分の思いを伝えようとしたりすること。

6 本研究でめざす児童の姿

「やさしさ・やる気・夢がいっぱい みんなとつながる田浦っ子」

◇話すこと（やり取り）系統表

3・4年生	5・6年生
<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりする。 ○自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う。 ○サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりする。 ○日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。 ○自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。

7 研究の仮説

【仮説1】

児童の実態に合った学習のゴールを設定し、意欲的に取り組むことができる言語活動を設定すれば、伝え合う力が高まり、主体的にコミュニケーションを図ることができるだろう。

【検証方法】 アンケート結果（教師と児童）、児童の様子、研究授業、NRT

【仮説2】

授業の系統性を明確にし、段階的に伝え合う活動に取り組ませれば、児童の伝え合う力が高まり、主体的にコミュニケーションを図ることができるだろう。

【検証方法】 アンケート結果（教師と児童）、児童の様子

8 研究の具体的な取組について

(1) 授業づくりに関すること

児童の学習意欲を喚起する学習課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールの姿を設定し、単元を通じた学習課題の設定 ・児童の実態を踏まえた題材の工夫
意欲的に取り組むことができる言語活動の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が話したくなるSmall Talkの進め方 ・題材の導入の仕方 ・1単位時間の基本的な学習の進め方 ・評価の在り方
振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「何ができるようになったのか（できなかったか）」を自覚し、次の学習につながるような振り返りの充実
ALTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・見本となるデモンストレーションの示し方 ・授業におけるHRTとALTの役割

(2) 低学年からの系統性に関すること

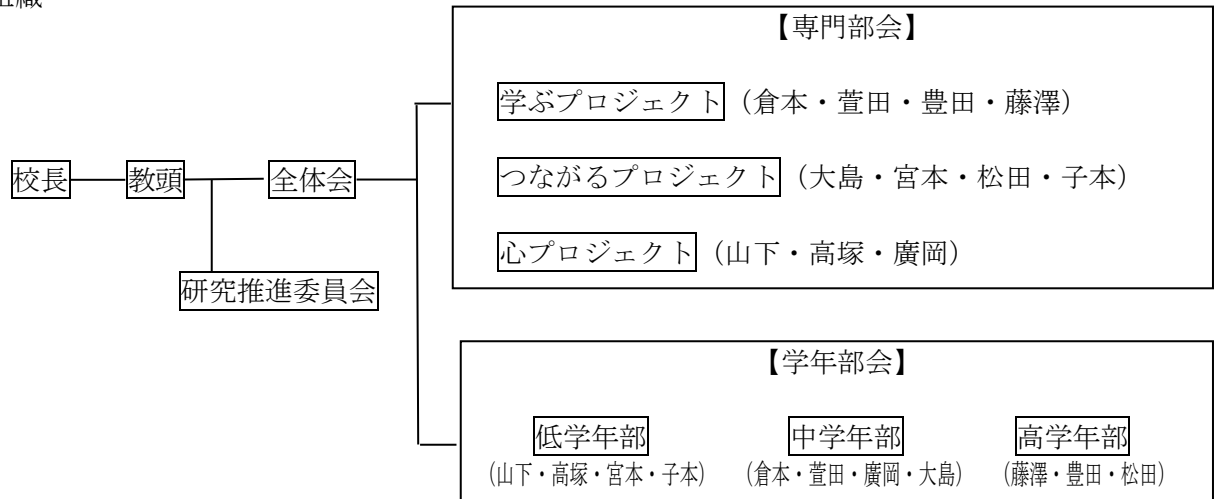
外国語活動、外国語との系統性を明確にした低学年における外国語学習の充実

(3) 日常活動に関すること

以下の外国語や外国の文化に親しむ活動を通して、児童の外国語に対する興味関心を高める。

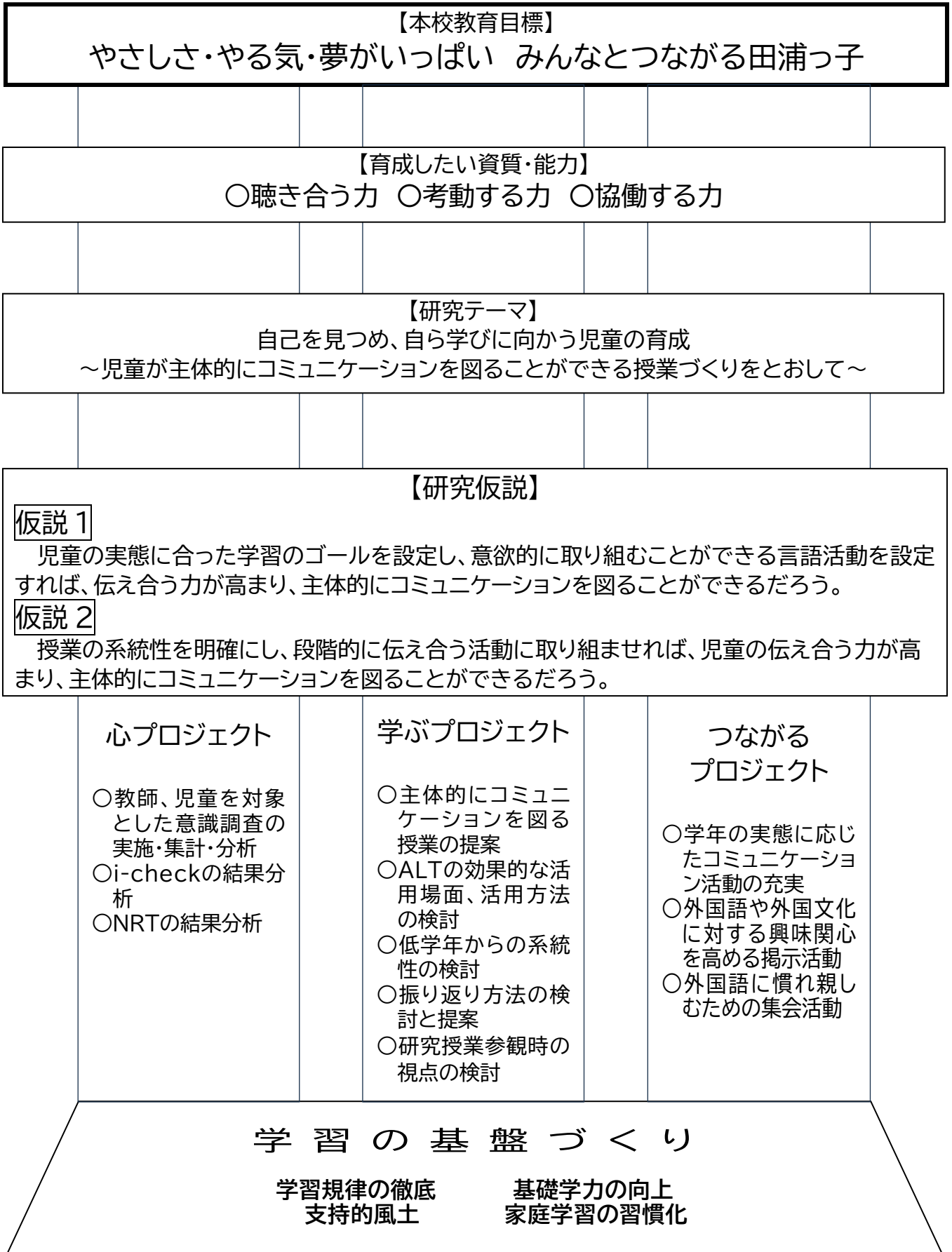
<ul style="list-style-type: none"> ・校内掲示の充実 ・縦割り班活動 ・校内放送 ・集会活動

9 研究組織



10 小中連携について

田浦小学校・田浦中学校では、今まで合同避難訓練、乗り入れ授業、合同校内研修などを行いながら小中連携を図ってきた。令和5年度までの活動を振り返り、両校の課題などを検討し、田浦中学校区目標『自己を見つめ、自ら学びに向かう児童生徒の育成～なりたい自分をめざして～』を新たに設定し、より深い小中連携を図っていく。具体的には6つの部会を編成し、それぞれの部会で、小中連携による目標達成のための手段を検討し、実践する。令和6年度は4回の合同校内研修を実施予定。



校内研修年間計画

回	月	日	内 容	回	月	日	内 容
1	4	10	I C T研修(講師来校)	20	10	16	小研①事前研
2	4	17	今年度の研究について	21	10	23	小研①事後研
3	4	24	小中合同校内研修①	22	10	30	小中合同校内研修③
4	5	1	部会別研修	23	11	6	小研②事前研
5	5	8	前年度のNRT分析・カリマネ研修	24	11	13	小研②事後研
6	5	15	(人権)今年度の取組	25	11	20	部会別研修(リーフレット作成)
7	5	22	心肺蘇生法・部会別研修	26	11	27	部会別研修(リーフレット修正)
8	6	12	外国語教育	27	12	4	(人権)講話等
9	6	19	大研①事前研(6年)	28	12	11	人権教育授業研(低学年)
10	6	26	大研①事後研(6年)	29	12	18	(情報)情報モラル
11	7	3	外国語教育研修	30	1	15	道徳教育授業研(低学年)
12	7	10	特別支援教育(配慮が必要な児童への対応等)	31	1	22	研究発表模擬授業・リハーサル
13	7	17	(情報)プログラミング教育	32	1	24	「英語教育」研究推進校発表会(3年・6年)
14	8	23	小中合同校内研修②	33	1	29	(人権)ブロック研参加
15	9	4	大研②事前研(4年)	34	2	5	県学調分析・対策・総合の計画見直し
16	9	11	大研②事後研(4年)	35	2	12	(人権)人権レポート
17	9	18	部会別研修	36	2	26	小中合同校内研修④
18	9	25	(人権)法令・施策の理解	37	3	5	(人権)1年間のまとめ
19	10	9	外国語教育研修	38	3	12	研究の振り返りと次年度の志向

【研究授業について】

- ・研究授業は、テーマに関係のある内容で行う。
- ・小研は〈低・高・たのうら〉の部会で行う。
- ・小研では、部会ごとに授業研究会を行う。授業研究会は校内研修の日に設定し、その日までの1週間以内に授業を行う。授業日は、全職員に事前に知らせておく。
- ・研究推進委員会には、管理職、教務主任、研究主任、専門部会長が参加する。
- ・教科等研などで研究授業を行う際は日時・教科を職員に周知する。

【人権教育について】

- ・「思いやりの心を持ち、自他を大切にできる子供の育成」というテーマで実践を行う。
- ・人権教育推進委員会には、管理職、教務主任、人権教育主任が参加する。
- ・人権レポート研修、人権問題に関する講話、人権ブロック研の研究授業、その他にも職員のニーズに合わせた研修を行う。
- ・アレルギー対策、いじめ対策は夕方連絡会で提案を行う。